

立命館大学 国際関係学部

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
TEL: 075-465-1211 E-mail: irpost01@st.ritsumeikan.ac.jp



先生方のプロフィール、先輩のメッセージなど
最新の情報はこちら

www.ritsumeikan.ac.jp/ir/

Futurize.



RITSUMEIKAN UNIVERSITY 立命館大学

2024

国際関係学部

College of International Relations | Ritsumeikan University



The World Awaits You

世界が、あなたを待っている。

Message from Dean

学部長メッセージ

最先端を走り続ける。

国際関係学部 学部長
西村 智朗



現代はグローバル化社会と言われています。毎日世界中で膨大な量のヒトやモノが移動しています。SNSなどのインターネットの普及やオンライン会議ツールなどの登場によって、情報やコミュニケーションのボーダレス化もますます加速しています。世界はますます「身近」になったと言えるでしょう。しかしながら、世界には解決されていない問題もまだまだ山積しています。領土や資源の奪い合い、深刻な人権侵害や難民問題、温暖化や海洋汚染などの環境破壊、貧困や格差問題、最近では感染症などが挙げられます。これらの問題は、「グローバル」な問題であると同時に国家や国際機関で協力・調整が必要な「国際的」な問題でもあります。

これらの問題は、それぞれ複雑な原因を抱えており、解決のためには様々な要素を検討しなければなりません。社会科学の分野においても、政治学、法学、経済学、社会学など既存の伝統的な学問領域を横断した研究が必要になります。加えて、先ほど触れた「身近な世界」は、同時に「多様な世界」でもあります。アジア、アフリカ、アメリカ、ヨーロッパ、オセアニアや大海の小さな島々など、それぞれ独自の文化や習慣、言語や宗教が存在します。これら地域の伝統や生活を尊重することも大切です。そのための情報の収集や意見の発信には、英語をはじめとする語学力も重要になります。

すなわち、このような課題に取り組むためには、学際的な知識と世界各地の特殊性を理解し、高度な語学力を駆使する人材が求められています。

立命館大学国際関係学部は、このような国際社会の

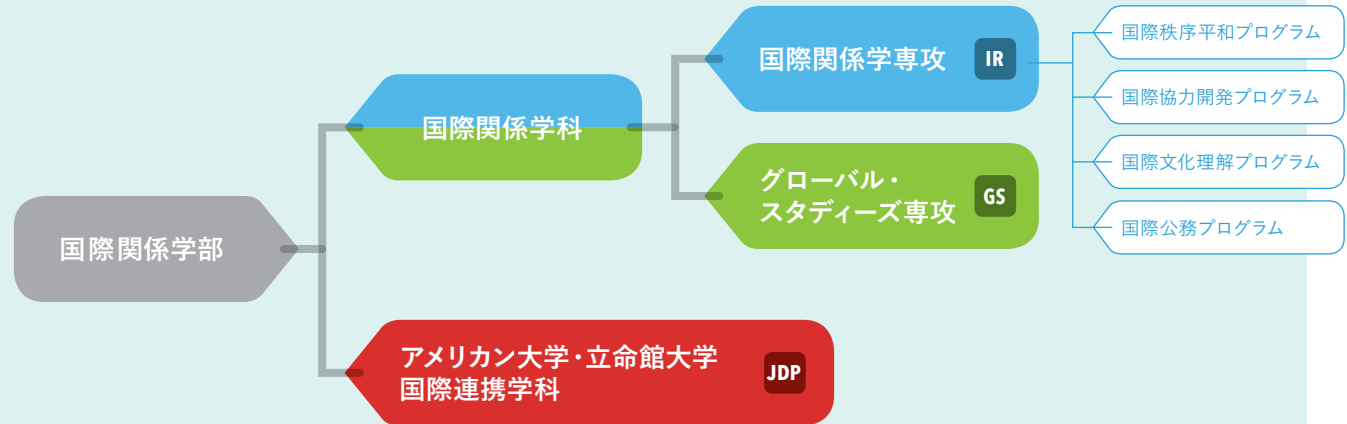
様々な問題を認識・共有し、その解決策を考え、世界で活躍する人を育成することを目指しています。そのために、本学部には、国際関係の理論を学ぶ多彩な専門科目、世界を網羅する地域研究、そして実践的な英語力とその他国連公用語をカバーする語学教育、すなわち「理論×地域×言語」の三つを究めるための優秀な教授陣が揃っています。この三本柱が、本学部の教学の特徴です。

立命館大学国際関係学部は、まだ米ソ冷戦が終結していない1988年に設立され、日本における国際関係学の先頭を走ってきました。2011年には、従来の日本語での教育を中心とする国際関係学専攻に加え、英語による教育を中心とするグローバル・スタディーズ専攻を新設しました。2018年には、アメリカン大学・立命館大学国際連携学科（JDプログラム）を設立しました。JDプログラムの日本で学修をスタートする学生は、1年半を京都、2年間をワシントンD.C.、そして最後の半年を再び京都で学びます。このように、本学部では、多くの日本人学生と世界中から集まった国際学生が、日本の伝統文化が息づく古都・京都で交流し、切磋琢磨しています。

設立から30年以上を経て、8000人を超える卒業生を送り出していることも本学部の強みです。これまで多くの卒業生が、日本だけでなく世界各国で、民間企業、公務員や国際機関職員、教育研究機関やNPOなど様々な業種で社会に貢献しています。私たちは、これからも、個を磨き、世界に羽ばたく学生を応援していきます。

Departments, Majors & Programs

学科・専攻・プログラム



IR GS 国際関係学科

国際関係学部は、世界各地の学生が高い志を持って集う多文化共存の空間です。多様なバックグラウンドを持った、学生、教授陣が集っています。国際的に教育・研究・社会貢献を行う教員、国際社会のさまざまな分野で活躍してきた客員教授、そして、日本で数人しかいない珍しい専門領域を持つ教員たちから新たな発見や閃きを得

ることができるでしょう。多文化が融合する空間で学び、国際的な感覚と知性を磨き、世界が求めるグローバルな見識と行動力を養います。現代の国際社会が抱える問題を多面的に探求し、既存概念にとらわれずに自分の頭で考え、問題解決に挑みます。

主に日本語で学ぶ国際関係学専攻と英語で学ぶグローバル・スタディーズ専攻。

多くの科目で、同じ内容の講義を日本語と英語の両言語で開講しています。クロス履修システムを活用することで、国際関係学専攻の学生は関心ある科目を英語で学ぶことができ、グローバル・スタディーズ専攻の学生は日本語による科目を受講することができます。

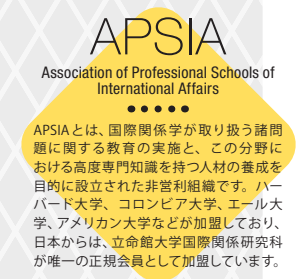
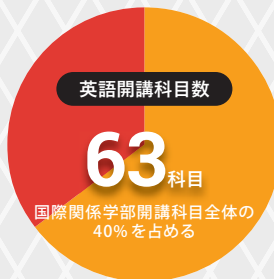
JDP アメリカン大学・立命館大学国際連携学科

1994年、国際関係学部は日本国内で初めてDUDP（デュアル・ディグリー・プログラム）を導入しました。そこからスタートしたアメリカン大学との長年に渡る教員の相互派遣や教員および職員間の交流を経て、2018年には、DUDPをさらに進化させた学部レベルでは日本初となる国際連携学科（ジョイント・ディグリー・プログラム）を

アメリカン大学と共同で開設しました。プログラムでは、西欧中心に築かれた学問体系である「国際関係学」を、さらに日本を含む非西洋の視点を取り入れ発展させた「グローバル国際関係学」の修得を目指して京都とワシントンD.C.でそれぞれ2年ずつ学び、単一の共同学位（BA in Global IR）を取得します。

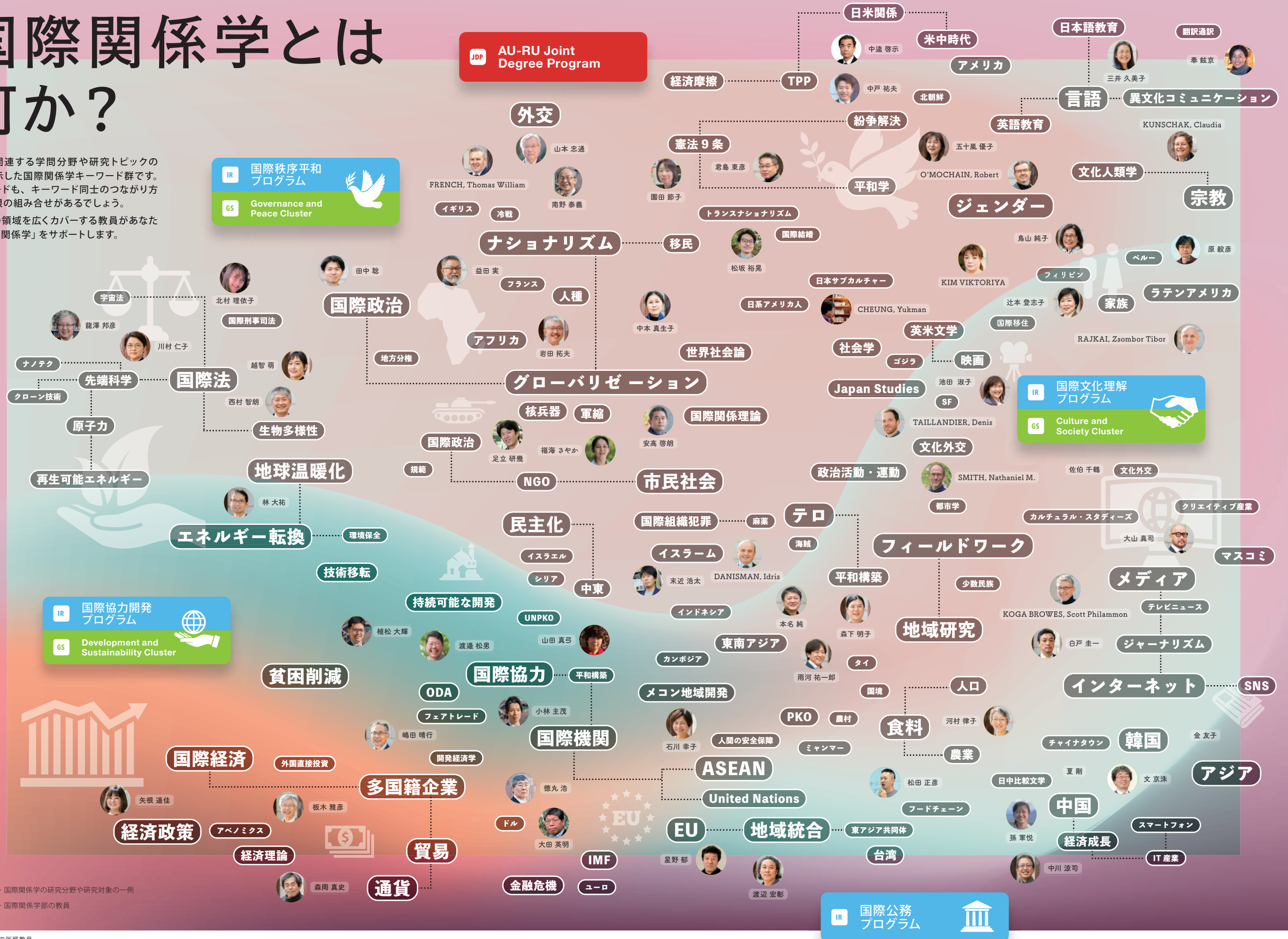


IR AT A GLANCE | 数字で見る国際関係学部



IR 国際秩序平和
プログラム

GS Governance and
Peace Cluster



多文化が融合する空間で学ぶ。

国際関係学科

Department of International Relations

国際関係学専攻

International Relations Major

IR

国際秩序の動態を歴史、法、政治、解決・実現方法の四つの角度から学ぶ「国際秩序平和プログラム」。持続可能でバランスの取れた国際協力や開発のあり方を学際的、体系的、実践的に探求する「国際協力開発プログラム」。国際社会の政治・経済構造と文化の関係、異文化理解の方法、異文化衝突の問題などを学び多文化共生の道を探る「国際文化理解プログラム」。国際機関、国家および自治体の公務行政について学ぶ「国際公務プログラム」。個々の関心事に沿ったプログラムを選択し、より専門的に深めていきます。



国際秩序平和プログラム

■ 国際社会のダイナミズムを学び、新しい国際秩序のあり方を探る

国際秩序の歴史と現在、そして新時代の展望を、国際政治・国際関係論・国際法・国際経済などの分野から総合的に学修。戦争・平和・人権から、紛争や経済摩擦まで、幅広い問題を解決するための新たな手法を探ります。



国際協力開発プログラム

■ 持続的な社会と経済発展を両立する国際協力・開発援助のあり方を学ぶ

途上国の現状や国際協力・援助など、国際的な社会・経済発展の条件や貧富の格差の問題を実践的に学修。政府や国際機関による国際協力だけでなく、企業やNGOなどの活動も視野に入れながら諸問題の解決策を探ります。



国際文化理解プログラム

■ 高度な異文化理解力を身につけ、共生社会の実現にアプローチ

グローバル化が進む現代において、多様な文化や価値観を尊重しあい、共生社会を育てて行くことは重要なテーマです。さまざまな文化や社会を比較考察し、多文化共生の道を探ります。



国際公務プログラム

■ 国際関係の学びを国内外の行政キャリアへと繋ぐ少人数教育

外交官をはじめとする国家公務員や国連職員、地域を支える地方公務員など、行政を担うキャリアをめざす学生が切磋琢磨しながら、グローバルな公共政策や国内外の行政に関する実務と理論を学びます。



グローバル・スタディーズ専攻

Global Studies Major

GS

2011年に開始した「国際関係学」を英語で学ぶグローバル・スタディーズ専攻。開設当初は1学年60名でスタートしましたが、学生や社会からの強い要望に応え、2018年からは1学年100名に定員を拡大しました。今では約30カ国から集まる学生と11カ国から集まる教員が多様な文化を抱える学びの集団を形成しています。2018年度カリキュラム改革を経て、プログラム間の境界を越えて自由に科目を選択できる、より学際的なコースを提供します。

This major seeks to stimulate a systematic learning, while going beyond the borders of academic, scientific, disciplines. The program is designed to be flexible, with students able to design their learning programs based on their interests and career goals. The program puts a focus on courses related to Japan and Asia and has increased these courses. In the first year, students take a range of introductory and foundation courses as well as academic skills courses, which develop a foundation for their studies in English. From the second year, students start their study of core courses choosing from a mixture of 3 clusters detailed below.

Governance and Peace Cluster

International Law, Security Studies, Global Political Economy, Comparative and Global Governance, Peace and Conflict Studies, International Organization, International Human Rights, Advanced Topics in International Relations



Development and Sustainability Cluster

Development Studies, Global Environmental Issues, Microeconomics, International Trade and Investment, International Finance, Global Civil Society and Development, Advanced Topics in International Relations



Culture and Society Cluster

Race and Ethnicity in the Modern World, Media and Society, Cultural Awareness and Communication, Global Sociology, International Migration, Topics in Identity, Advanced Topics in International Relations



国際政治の中枢で学ぶ。

アメリカン大学・立命館大学 国際連携学科

JDP

American University-Ritsumeikan University Joint Degree Program

アメリカン大学と立命館大学が共同で開設する国際連携学科(ジョイント・ディグリー・プログラム)では、京都とワシントンD.C.でそれぞれ2年ずつ学び、共同学位(学士「グローバル国際関係学」)を取得します。世界の動きを肌で感じながら、専門分野に加えて語学力を伸ばし、国際感覚を培うことができます。アメリカン大学は、国際関係学において全米9位(学部)*。1963年の卒業式では、ケネディ大統領が「平和の戦略」の演説を行う等、オバマ大統領をはじめとする歴代の大統領が訪れる大学です。日本の伝統文化と革新の気質が融合する京都と、激動の政治の中心に位置するワシントンD.C.。二つの都市での学びは、歴史・文化そして国境を超えた人との交わりを可能にし、世界中の人々とのネットワークを築き、グローバル・リーダーの精神を育みます。

* Foreign Policy Magazine (2018)のランキング



■ グローバル国際関係学とは

JDPでは、西洋の国際関係学の枠組みを超えた、「グローバル国際関係学」を修得することを目指しています。これまでの「国際関係学(IR)」は、西洋、とりわけ英米的視点によって発展してきましたが、国際社会の多元化に伴い非西洋的視点の必要性が国際関係学の世界でも主張されています。こうした状況のなかで、非西洋社会に位置しつつも西洋をモデルとした近代化を成し遂げた日本社会において、西洋および非西洋という二項対立的視点を越えた新たな国際関係学を学ぶ意義と必要性が高まっています。アメリカと日本、二つの視点から国際関係学を考えていく新しい挑戦です。

■ ラーニングスケジュール

立命館大学から学修を開始する「RU Home Students」は、入学後、最初の1年半を立命館大学で学びます。授業は全て英語で行われ、国際関係学部在籍する多くの留学生や、立命館大学で学修中のアメリカン大学の学生と共にグローバルな環境下で学びます。2回生の秋学期からアメリカへ学ぶキャンパスを移動し、4回生春学期までの2年間をアメリカン大学で学びます。4回生の5月末ごろに日本へ帰国、4回生の秋学期にもう一度立命館大学で学び、最後の1学期で4年間の集大成である卒業研究をまとめ、卒業します。

■ 学修支援プログラム

JDPは、学生が4年間で二つの大学で学び、一つの学位を共同で授与されるこれまでにないプログラムです。プログラムでは、参加学生が着実に充実した4年間で過ごすため、様々なサポートプログラムを用意しています。米国の大学に直接進学する場合に比べて、英語能力向上の支援や進路・就職面のキャリア・サポートなど、日本の大学ならではのサポートを受けることができると同時に、アカデミック・アドバイジングといった日本の大規模大学では珍しい、国際基準の学修サポートが実施されます。

1年目		2年目		3年目		4年目	
1 SPRING	2 FALL	3 SPRING	4 FALL	5 SPRING	6 FALL	7 SPRING	8 FALL
立命館大学	立命館大学	立命館大学	アメリカン大学	アメリカン大学	アメリカン大学	アメリカン大学	立命館大学
Core/Foundation/Cohort Courses					Instruction linked to Seminars and Senior Capstone Program		Senior Capstone Program (Seminar)
Academic Skills (Building Foundations of Academic Writing)		Research Methods					
Japanese/English (if necessary)		Thematic and Regional Courses					

Timeline

充実した学部での学びを実現する上で、4年間の学びの流れを理解し、プランニングする。そして、どのように自分だけの学びとキャリアにつなげていくか思い描く。国際関係学部でどのような4年間を過ごしていくかは、あなたの無限の発想力と行動力次第。

4年間の 大学生活の設計

4年間の学びのプランを立てましょう。国際関係学部での学習、留学、課外活動、資格取得、就職活動などについて、4年間の中でいつ、どのように取り組むのか。現時点での目標を明確にし、スケジュールを立てましょう。



プログラムごとに専門分野の主要概念を学びながら、英語の4技能を修得。グループワーク、プレゼンテーション、ディベート、クラス全体でのディスカッション等を行います。

専門分野の基本文献の精読に挑戦します。担当教員のサポートを受けながら、文献を読み込むトレーニングを行います。

専門演習や専門科目を通じて 専門的知見を深める

国際関係学部の学生は3年生から卒業まで、「専門演習（ゼミ）」を履修します。2年間、同じ担当教員のゼミに所属し、自分の興味ある分野を、興味を同じくする仲間と共に学び、学修の集大成である卒業研究の作成に必要な力を身につけていきます。



就職活動と大学での学修の両立のため、立命館大学のキャリアセンターの専門スタッフが一人一人の学生を丁寧に支援します。

Start!

1 回生

1 回生 春学期

- First Year Retreat
- 基礎演習

ゼミ形式で、大学での学び方や研究を進める手法、研究成果の発表方法などのスキルを学びます。

1 回生 秋学期

国や国際機関といったアクターに扮し、国際政治や国際経済の大きな動きの中で「政策立案」、「交渉過程」などのプロセスを擬似的に体験することで、国際関係の動きを学びます。

- ブリッジ科目（BIS）の履修
- グローバル・シミュレーション・ゲーミング（GSG）の履修

- 国際関係学セミナーの履修

- ★プログラムに所属
※IR専攻のみ

2 回生 秋学期

2 回生

プログラムに所属*し
国際関係学の基盤を築く

※IR専攻のみ

プログラムごとの専門科目の履修、専門的な英語運用能力を養うための科目の履修が始まります。これらの科目の履修、授業外での様々な活動を通じ、国際関係学の基礎を習得しましょう。

グローバル・シミュレーション・ゲーミング（GSG）

話し方や国民性など、担当アクターをとことん研究して、なりきってください！

畠 麻理奈 さん（GS専攻3年生）



私だったら、ではなく、担当アクターになりきってアクションを起こすことは難しかったですね。“交渉”の難しさ、世界規模で見た時のアクター（私の場合は中国のメディア、CCTVのPresident）の行動の重要性を体験することができました。事前のリサーチを通してたくさんの知識を得られ、政治や経済の問題にも壁を感じなくなると思います。学年全員が一斉参加するので、専攻に関係なくさまざまな人と交流できたことも強く印象に残っています。

3 回生

3 回生 春学期

- ★専門演習（ゼミ）の履修

3 回生 秋学期

キャリア支援教育

行政、メディア、民間企業といった各業種に対する理解を深める「プロフェッショナル・ワークショップ」、実践にこだわらず、原理的・理論的に自らのキャリア問題を捉える「キャリア・デザイン」など、キャリア形成を見据えた正課科目を開講しています。



専門演習/Advanced Seminar

専門的な知識や経験を持つ教授と少人数の学生で議論を行う貴重な場

齊藤 瞳 さん（IR専攻4年生）



3年生秋に行われるゼミナール大会に向けて、春学期の終わってからチームを組み、4ヵ月ほどかけて取材を行いました。教授に取材先や発表方法の相談をすることはありましたが、テーマ選択、取材、動画編集、発表まで、全てを学生だけで行うのはとても大変でした。テーマが設定されていて調査方法や論述形式が明確なレポート試験とは違い、一から作り上げる難しさを学びました。役割分担やチーム全体のスケジュール管理の難しさも学んだ貴重な経験でした。

- 就職活動

4 回生 春学期

4 回生 秋学期

4 回生

4年間の集大成
卒業研究の作成

担当教員やゼミの仲間と議論を交わしながら、学びの集大成として卒業研究を仕上げます。4年間の学びは社会人として成長していくための基盤となるもの。国際関係学部で学んだ成果を形にすることは、将来のキャリア形成を考える上でも重要です。

卒業研究/Graduation Research

卒業論文の内容を発展させるため、卒業後はイギリスの大学院に進学

KIM Minsu さん（IR専攻2023年卒業）



授業でもレポートは作成してきましたが、20,000字以上の長い文章を書くことは初めてでした。3年生の終わりがから書籍や先行文献をひたすら読み込み、テーマを絞っていきました。4年生の夏からデータを使用した計量分析を開始。疑問点や重要な点を細かく分け、それらを少しずつ明らかにすることで最終的には説得力がある論文に仕上げられたと思います。この経験は大学院での修論執筆や社会に出て役に立つと確信しています。

Courses

クロス履修システム
両専攻では、大半の科目で同じ内容の講義を日本語と英語の両言語で開講。各専攻の学生は、他専攻の科目を半分近くまで履修可能です。

IR 国際関係学専攻	基礎演習 国際関係学 国際連合入門 平和学入門 法学 経済学	政治学 社会学 言語学 文化人類学 English for International Studies (EIS) 初修外国語	国際経済学 国際政治学 国際文化・社会学 地域研究論 グローバル・シミュレーション・ゲーミング (GSG)	国際関係学セミナー Bridge to International Studies (BIS) Intensive English (IE) 国際法 国際協力論 途上国政治論	欧米政治史 国際ジャーナリズム論 比較文化論 プロフェッショナル・ワークショップ 東南アジア研究	ヨーロッパ研究 北アメリカ研究 東アジア研究 アフリカ研究 ラテンアメリカ研究 中東研究	専門演習 国際人権法 国際機構論 比較政治論 地域開発論 開発経済論	安全保障論 開発と食料 開発政策論 メディア・文化論 文化交流史 宗教と国際関係	国際貿易投資論 国際金融論 環境経済論 比較家族論 異文化コミュニケーション論 卒業研究 など
GS グローバル・スタディーズ専攻	Introductory Seminar Theories of International Relations Introduction to United Nations Introduction to Peace Studies Politics for Global Studies	Economics for Global Studies Sociology for Global Studies Academic Skills (AS) Kyoto and the Japanese Arts Macroeconomics	Global Simulation Gaming (GSG) Global Studies Seminar Introduction to Area Studies International Law Security Studies	Global Political Economy Development Studies Media and Society Microeconomics Global Environmental Issues	Cultural Awareness and Communication Race and Ethnicity in the Modern World Advanced Seminar Peace and Conflict Studies	International Human Rights International Organizations International Finance International Trade and Investment	Global Civil Society and Development Global Sociology International Migration Topics in Identity	Advanced Topics in International Relations Graduation Research など	
JDP アメリカン大学・立命館大学国際連携学科	立命館大学（京都）で受講する科目 Introductory Seminar Theories of International Relations Macroeconomics Microeconomics	立命館大学から学修を始める際の一例。学習スケジュール、選択する分野などによって選択できる科目は異なります。 Japanese Culture Introduction to the United Nations Comparative and Global Governance	Introduction to Gender Studies Security Studies Japanese Politics Japanese Society	Japanese Economy Japan-United States Relations Advanced Seminar Graduation Research	アメリカン大学（ワシントンD.C.）で受講する科目 SISU-106 First Year Seminar SISU-206 Introduction to International Relations Research SISU-212 China, Japan and the United States	SISU-306 Advanced International Studies Research SISU-312 Governance, Development, and Security in Asia SISU-359 Environment, Conflict, and Peace	SISU-368 Differences and Similarities in Conflict Resolution SISU-380 Topics in Global and Comparative Governance SISU-393 International Relations Theory		

外国語の選択

（国際関係学科）

日本語を母国語とする入学者は、英語と初修外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語のいずれか1語種）を、留学生は英語と日本語を学修します。また、希望する学生は3回生以降、国連公用語であるアラビア語、ロシア語を履修することが可能です。

基礎演習

Introductory Seminar

1回生が入学直後から所属するゼミ形式の授業です。大学での学び方、研究を進める手法、研究成果の発表方法などのスキルを学びます。基礎演習のクラスは4年間を共に過ごす仲間づくりの場でもあります。担当教員だけでなく、オリターと呼ばれる先輩学生などが生活・学修の両面をサポートします。

基礎科目と基幹科目

General Education Courses & Foundation Courses

IR専攻では、法学、政治学、経済学など、GS専攻では、Politics for Global Studies などにより、国際関係学「理論」の基礎を築きます。

グローバルエデュケーションを支える

国際英語プログラム

TOEFL®およびCEFRの国際標準規格を基にした能力別クラス編成（25名まで）を行い、専攻ごとに用意されている科目、English for International Studies (EIS)、Bridge to International Studies (BIS)、Academic Skills (AS)、Intensive English (IE) で 英語による専門講義の履修（クロス履修）と交換留学に備えます。

グローバル・シミュレーション・ゲーミング

Global Simulation Gaming (GSG)

IR専攻とGS専攻を統合し、2回生全員が参加する実践型授業です。環境問題や核開発問題など年毎に統一テーマを決め、学生グループが政府や国際機関、NGO、メディアの役割を演じるロールプレイで国際交渉を行います。実際の国際交渉のプロセスを読み解く力を身につけるだけでなく、コミュニケーション能力を磨き、リーダーシップを育む機会でもあります。

国際関係学セミナー（IRセミナー）

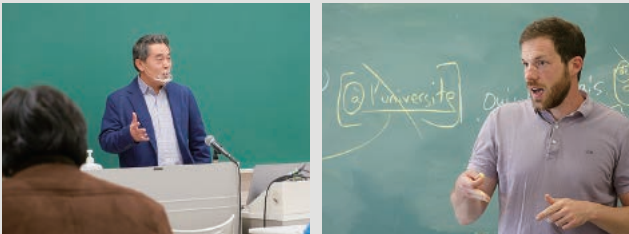
Global Studies Seminar (GSセミナー)

IR専攻の四つのプログラムに制限されることなく、自由に選択した分野を、より専門的に学び始めます。IR/GSセミナーでは、担当教員のサポートを受けながら、各分野の古典や基本的文献の購読や読み込むトレーニングを行います。

専門演習

Advanced Seminar

3・4回生を通じて所属するゼミです。自分の興味ある分野を専門にする先生の下で興味を同じくする仲間と学ぶ2年間であり、卒業研究に向けて準備をする場でもあります。すべての学生がゼミ（専門演習・Advanced Seminar）に所属し、切磋琢磨しながら卒業研究の基礎となるタームペーパーを作成します。



地域研究科目

Area Studies Courses

専門分野および研究課題を選択するとともに、具体的にその分野に関与する特定の「地域」に焦点を当て、他の地域（多くの場合、日本）と比較しながら、研究課題をさらに深く掘り下げます。その範囲は、北アメリカ、ラテンアメリカ、ヨーロッパ、日本、アジア、東南アジア、中東、アフリカなど、オセアニアを除くほぼ全域に及びます。

固有専門科目

Core Program Courses

国際関係の諸側面に関わるさまざまな専門科目を設置しています。なかでも3回生以降は、比較政治論、国際機構論、開発政策論、メディア文化論、International Organizations, Global Civil Society and Development, Global Sociologyといった、各プログラムや各クラスターにおける理論を深く学びます。これらを通して複雑なグローバル社会を総合的・立体的に把握し、自らの問題意識の醸成に繋いでいきます。

卒業研究

Graduation Research

担当教員やゼミの仲間と議論を交わしながら、自分の学びの集大成として卒業研究を仕上げます。4年間の学びは社会人として成長していくための基盤となります。卒業研究を通じて、国際関係学部で学んだ成果を形にすることは、将来のキャリア形成を考える上でも重要です。

キャリア選択と支援

就職活動と大学での学修の両立のため、立命館大学のキャリアセンターの専門スタッフが一人一人の学生を丁寧に支援します。就職活動中は東京や大阪のキャンパスでも支援が受けられます。オンキャンパスで行われる就職セミナーや企画も多数開催しています。また、国際連携学科の学生は、ワシントンD.C.においてさまざまな企業の就職のワークショップに参加できると同時に、日本からも支援を受けることができます。

クロス履修システム

日本を客観的な視点から学び、新たな一面を知ることができた
高橋 清乃さん（IR専攻4回生）

GS専攻の授業は多くの留学生が履修しているため、多様な文化的背景を持つ学生の意見を知ることができます。また、日本語で学んだことを英語でどのように表現ができるのか、英語でのアウトプットの練習の場としても活用できました。クロス履修での「日本以外のことを軸にして考える」経験を経て、「違う角度から考える」ことができるようになったと感じています。

Voice

英語と日本語、それぞれの言語で国際関係学を学ぶ力が身に付いた
白木 杏佳さん（GS専攻4回生）

GS専攻の私は「英語で学ぶ」にこだわっていたのですが、IR専攻の友人から「日本語の講義でこんなおもしろい授業があった」と聞き、クロス履修で日本語の講義も並行して受講してみました。結果、日本語（母国語）で受ける講義と、英語で受ける講義で自分の中に受け止め方の違いがあることを発見し、また、先生方のさまざまな価値観にも触れることもできました。

Global Education



英語科目 /Academic Skills/Intensive English

国際関係学部では、学科や専攻、学年に合わせて様々な英語の授業を開講しています。

国際関係学専攻の学生が1年次に受講するEnglish for International Studies I～IVは、国際関係やそれに関連のある内容の教材を使用し、総合的な英語運用能力を修得することを目的とした科目です。2年次には、英語で国際関係学の専門分野を学ぶための力を養うためにBridge to International Studies I～IIIを受講します。入学してから2年間継続して英語を学ぶことにより、英語で開講される授業や交換留学に備えることができます。

また、グローバル・スタディーズ専攻と国際連携学科の学生は1年次にAcademic Skillsという授業を受講します。これは英語で国際

関係学の科目を受講するために必要なアカデミック・スキルを養うための授業です。

これらの授業はTOEFL®およびCEFRの国際基準規格を基にして能力別にクラス編成がおこなわれているため、自分のレベルにあったクラスで効果的に英語力を伸ばすことができます。

これらの英語科目に加え、主に交換留学を希望する学生に向けて、英語の苦手分野を克服することに重点を置くIntensive Englishという科目もあります。語彙と読解、スピーキングとリスニング、ライティングと文法という3つのクラスがあり、選考の上、自分の苦手分野の授業を受講することができます。

友人との会話を通して 英語で自分の考えを述べる機会を作る

長江 大晴 さん (GS専攻2回生)



元から語学力そのものはそれなりにあったと思うのですが、中高時代には英語で自分の考えを述べる機会があまりなかったので、国際関係学部では授業での発言やキャンパスでの友人との会話など、英語を話す機会を自分で積極的に作るようにしています。学習している言語に触れる機会は自分で作れるものなので、一人で考え事をするのに英語を使ってみたい、いろいろと工夫してみることをお勧めします。

語学力がアップしたというより、 「英語に脳が慣れた」と感じています

李 莉玖さん (IR専攻2回生)



英語のクラスでは一番レベルの高いAdvancedクラスに所属しました。クラスメイトは帰国子女の人も多く、私のように日本の高校で授業をメインに学んできた人はあまりいない印象でした。しかし、外国語学習で大切なのは「何とかしてでも伝える」というスタンスだと考え、学習を積み重ねた結果、最高レベルのA+の成績を獲得しました。心構えとしては、「間違いを恐れない」こと。積極的に英語を話す場を設けることを強くオススメします。



ライティング・チュートリアル・プログラム

ライティング・チュートリアル・プログラムとは、日々の授業でのレポート・論文の執筆や、大学の学修の集大成である卒業論文を執筆するために必要な「アカデミック・ライティング」を身につけるための個別サポートプログラムです。

国際関係学部では、2018年度カリキュラムより「卒業研究(卒業論文)」が必須となりました。質の高い卒業論文を書くのに必要なアカデミック・ライティングのスキルは、学習と経験の積み重ねにより身につきます。国際関係学部ではその1つの機会として、日本語と英語のライティング・チュートリアルを実施しています。論文作成経験が豊富な国際関係研究科の大学院生及び国際関係学部の上回生(チューター)と1対1で授業の課題レポートに共に取組み、アカデミック・ライティングのスキルを磨いていきます。

このプログラムでは、チューターが学生のレポートを書き換えることはしません。学生がより良いレポート・論文の自立的な書き手になるようにアドバイスをします。

チューターは、チュートリアルを効果的に行えるよう研修を受けています。また、チューター研修には1回生の授業を担当する教員も参加し、授業の課題レポートにおける重要な点についてチューター

と意識合わせを行います。

ライティング・チュートリアル・プログラムを利用した学生を対象に実施したアンケートでは、97%の学生が「また利用したい」と回答しています。

学生自身が自信を持って 執筆していけるようサポートします

池原 成望さん (国際関係研究科・国際関係学専攻2回生)



大学でレポートを作成するにあたっては、ひとりよがりの主張にならないように、論拠を示しながら記述することが重要です。参考文献の引用方法や論文の構成など、「学術的作法に従って書く」という姿勢を身につける必要があります。「論文やレポートとは何を書くものかわからない」、「引用の仕方や参考文献の書き方を教えてほしい」といった初歩的な相談も大丈夫です。学生自身が自信を持ち執筆していけるようにサポートしてもらえる点が魅力です。

[全学募集] 海外留学プログラム

留学の目的や意義は一人ひとり違うはず。立命館大学ではそれぞれの目的や状況に応じた多様な留学プログラムが提供されています。2022年度には95名の国際関係学部の学生が留学・国際プログラムに参加したほか、ボランティアやフィールドワーク等、独自に海外渡航をする学生も多数います。留学準備は国際教育センターが丁寧にサポートし、危機管理についても事前に情報提供を行います。

*新型コロナウイルス感染症の拡大状況等に応じて、プログラム実施の有無等に変更が生じる場合があります。最新の情報は必ず募集要項にて確認してください。

長期留学プログラム

半年～2年間

語学力を高めながら、外国語による講義を受けるプログラムや、正規の学部留学、またはそれに匹敵するプログラムで自分の専攻分野の学修を外国語で行うことを主要な目的としたプログラムがあります。正規の学部留学の場合は、現地の正規学生と同様に授業を受け、単位取得を目指します。多くの国際関係学部生が長期留学に参加しています。

代表的な留学プログラム

立命館・UBCアカデミック・イマージョン・プログラム

留学期間：8ヵ月
留学先：カナダ

交換留学

留学期間：半年～1年間
留学先：世界32カ国・地域、148大学・機関

ASEANで学ぶ国際PBLプログラム

留学期間：4ヵ月～5ヵ月間
留学先：インドネシア・タイ

DUDP(学部共同学位プログラム)

留学期間：2年間
留学先：アメリカ

1セメスター留学プログラム

4ヵ月～6ヵ月

長期留学プログラムも視野に入れた語学力の向上と現地での外国語による講義の受講を目的としたプログラムです。語学レベルが中級程度の方を対象に、特定のテーマについての講義やフィールドワークを行います。

代表的な留学プログラム

立命館・カリフォルニア大学デービス校

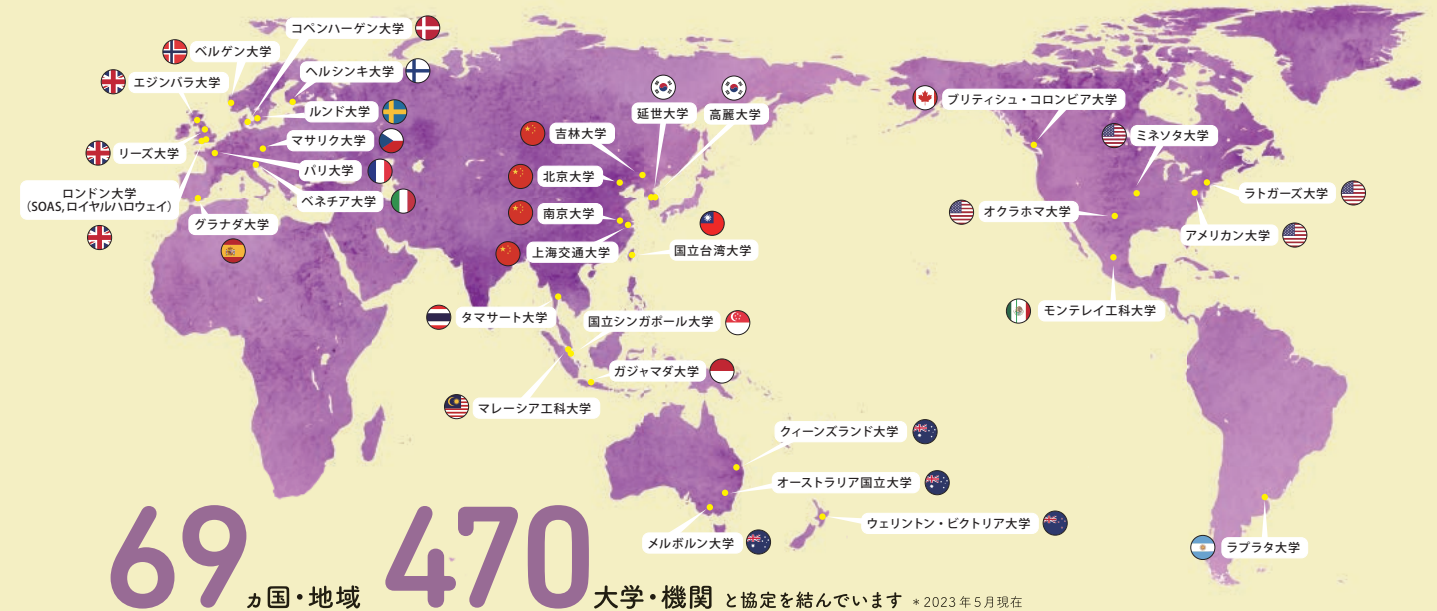
留学期間：6ヵ月
留学先：アメリカ

立命館・ヨーク大学

留学期間：4ヵ月
留学先：イギリス

立命館・ワシントン大学

留学期間：4ヵ月
留学先：アメリカ



短期留学プログラム

1週間～7週間

語学力の向上と異文化体験を主な目的としたプログラムです。海外への渡航経験が少ない方や語学レベルが初級程度の方を対象に、フィールドトリップや集中的な語学学習を通じて異文化理解を深めます。

代表的な留学プログラム

Global Fieldwork Project

留学期間：1週間
留学先：ベトナム、マレーシア、カンボジア、タイ、インドネシア、台湾

現地で学ぶ初級語セミナー

留学期間：4週間
留学先：台湾、中国、韓国、フランス、ドイツ、スペイン、メキシコ

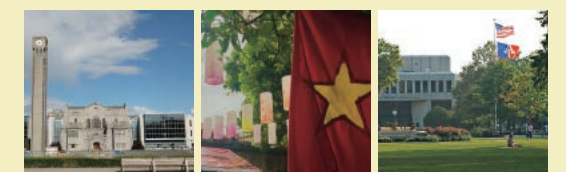
異文化理解セミナー

留学期間：4週間
留学先：カナダ、シンガポール、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド

*上記の他、海外スタディなどのプログラムも提供しています。

奨学金

立命館大学では、海外留学プログラムに参加する学生のみなさんを支援する奨学金制度があります。その1つである「立命館大学海外留学チャレンジ奨学金」(給付型)は、参加費用の一部の補助を通じて、みなさんの海外留学プログラムへの参加・修了を奨励しています。



Voices

国際関係学の学生は実際にどんなことを、どんなふうに学んでいるのか？
ゼミ、課外活動など、最新の情報、生の声を Web ページで紹介しています。

国際関係学とは何か？

国際関係学で何を学べるのか、教員の研究をひもとき、
豊富なエピソードで描き出していきます



www.ritsumeai.ac.jp/
ir/special/

読きは Web ページをご覧ください



PEOPLE of IR

キャンパスで、海外で活躍する
在学生・卒業生のインタビューサイト



模擬授業・オンライン講義シリーズ



Careers

VOICE

答えのない素朴な疑問を
真剣に議論する時間はとても楽しかったです

アクセンチュア株式会社

後藤 岳穂 さん

2018 年国際関係学部卒業



就職活動時に IT 業界を志望した理由は、二つあります。一つ目は、ノルウェーへ留学した際に IT と人々の暮らしが結びつく生活を体験し、IT の将来性に魅力を感じたためです。二つ目は、先端科学技術の発展をより身近に感じるためです。国際関係学部において、国際秩序や社会制度、文化は先端科学技術の発展と共に変化していくことを学びました。AI や量子コンピュータなどの技術を実際に活用する現場に身を置き、働き方や生活がどのように変化するのか肌で感じたいと考え、志望しました。

国際関係学部の魅力は多様な学問分野を広く学習できることです。政治、法律、経済、文化など、幅広い分野の講義があり、国際社会で取り上げられる問題が、身の回りの生活とどのようにつながっていて、いかに複雑に絡み合っているのかを学習することができました。入学したての頃、社会の複雑さや学問の広さを目の当たりにして、茫然としたことを覚えています。今も変わらず社会の複雑さには悩まされていますが、こうした視点に気づけたことは、4 年間の学習のおかげだと考えています。

現在は生成 AI を使用してプログラムを作成する勉強を進めています。ChatGPT など、一般の人でも AI の技術を手軽に使用できるようになり、半年、1 年の単位で急速に発展していくことが予想されます。今後さらに新しい技術が登場した際に特徴や仕組みを素早く理解できるよう、仕事の合間を見つけて勉強を続けています。

現代社会では日々膨大な情報が飛び交い、情報を整理するだけでも難しいかとは思いますが、ぜひ考える時間を大切に、実りのある大学生活を送っていただきたいです。

VOICE

文化・言語・対話を通じて
人々の間に共感や信頼、好意をはぐくむ

独立行政法人 国際交流基金
(文化事業部 美術チーム)

白井 莉奈子 さん

2021 年国際関係学部卒業



高校時代から紛争や平和といった事柄に関心があり、制度を整えることで現状をよりよくできるのではないかと考え、法律が学べる大学を目指していました。しかし、国際関係学部で大学生活を過ごすうちに、その視点だけではどうにもならないことがあるのではないかと。そして、「もしかしたら、人の認識が変われば世界は少しだけ変わるかもしれない。また、文化芸術であれば、それが可能かもしれない」と思い、文化・言語・対話を通じて人々の間に共感や信頼、好意をはぐくむことをミッションとする国際交流基金に就職したいと思うようになりました。

入職後約 1 年半は、海外で日本語を教えている先生方を対象とした招へい研修や、アジアの中学・高校などで日本語の授業のアシスタントや日本文化紹介を行う「日本語パートナーズ」の派遣前研修を運営していました。現在は美術チームにて、日本の美術や文化を海外へ紹介することを目的とした海外巡回展の制作・運営や、海外での展覧会等への助成事業を担当しています。

学生生活を通して、さまざまな国や地域を訪れ、多様な人と出会えたことが今の私につながっています。大学 1 年生の時は、NPO 団体のプログラムを利用し、タンザニアへ訪れました。大学 2 年生の夏から約 9 ヶ月間、アメリカのニューメキシコ大学に交換留学に行ったことも思い出深いです。在学中に各国の外交官と交流する機会を得たこと、ノーベル平和賞を受賞されたデニ・ムクウェゲ医師からお話を伺えたことも私自身の進路にも影響するものでした。卒業生が多く、各機関や団体とネットワークがある点も国際関係学部の魅力のひとつだと思います。

進路・就職状況

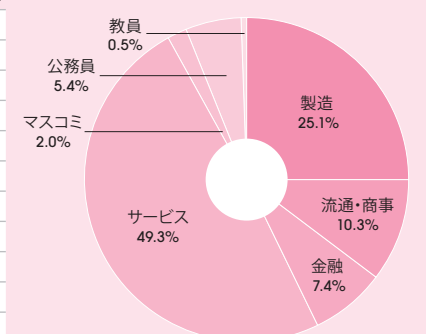
開設 30 年をむかえ、世界の第一線で 8,000 名以上の卒業生が活躍

世界に広がるネットワークを活かして、国際的な機関やメーカーなど企業の国際業務セクションに多く採用されています。
世界の有力大学院にも多数進学しています (ジョージ・ワシントン大学、オックスフォード大学、ジョーンズ・ホプキンズ大学など)。

2022 年度卒業生 就職先一例

50 音順

アクセンチュア (株)	住友商事 (株)	三菱電機 (株)
アマゾンジャパン合同会社	ダイキン工業 (株)	三菱UFJモルガン・スタンレー証券 (株)
(株)NTTデータ	東京建物 (株)	(株)村田製作所
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ (株)	豊田通商 (株)	楽天グループ (株)
オムロン (株)	日産自動車 (株)	(株)LIXIL
オリックス (株)	日本航空 (株)	(株)ロッテ
関西電力 (株)	日本電産 (株)	国家公務員総合職 (外務省)
(株)キーエンス	日本郵船 (株)	国家公務員総合職 (総務省)
京セラ (株)	パナソニック (株)	国家公務員総合職 (内閣府)
(株)クボタ	P&G ジャパン (株)	国家公務員一般職 (防衛省)
(株)クラレ	三菱自動車工業 (株)	外務省専門職員
SCREENホールディングス	三菱重工業 (株)	地方公務員 (上級職)



◎円グラフの数値は小数点以下第二位を四捨五入により算出。
◎端数処理の関係で 100% にならない場合があります。

Kyoto

文化と歴史の街であり、ユニークなカルチャーが息づく
大学の街である、京都。
ここにしかないキャンパス・ライフがあります。

Voice

高橋 清乃 さん
(IR 専攻 4 回生)



授業の前後など気軽に観光ができ、桜や紅葉の一番良い時期にも京都を満喫できます。暮らしやすい環境も整っています。立命館では京都学など京都の歴史や文化に関する授業も開講しているので、京都についての知識も深めることができます。

Voice

白木 杏佳 さん
(GS 専攻 4 回生)



「京都ならではの」アルバイトをしています。先斗町にあるフレンチ会席のお店で、着物を着てお料理をふるまう仕事です。財界、学术界やエンターテインメントなど、別世界のお客様との会話は、自分にとって財産になったと思っています。